年間授業計画　新様式例

高等学校 令和６年度（２学年用）教科　　商業　　科目　情報演習

教　科：　商業　　科　目：　情報演習　　単位数：　2　単位

対象学年組：第　2 学年　D　組・　E　組・　F　組

使用教科書：　情報処理(東京法令出版)　　)

教科　商業　　の目標：

【 知　識　及　び　技　能 】企業活動におけるソフトウェアの活用に必要な資質・能力を次のとおり育成する

【思考力、判断力、表現力等】地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力を育成する

【学びに向かう力、人間性等】商業の見方・考え方を働かせ，実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して職業人として必要な資質・能力を育成する

科目　情報演習　　の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
企業活動におけるソフトウェアの活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに，関連する技術を身に付けている。	企業活動におけるソフトウェアの活用に関する課題を発見し，ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決しようとしている。	企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び，企業活動におけるソフトウェアの活用に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域 話・聞	領域 書	領域 読	評価規準	知	思	態	配当時数
1学期	１章　企業活動とソフトウェア活用 １節　ビジネスにおける ソフトウェアの活用 ２節　ビジネスにおける ソフトウェアの進化	身近な事例を基にビジネスにおけるソフトウェアの活用を考える学習活動により，ソフトウェアの意義と重要性を理解する。 社会で利用されている情報システムの例や，ビジネスにおけるソフトウェアの活用の実例を学ぶことにより，情報通信ビジネスにおけるソフトウェア活用の重要性を理解する。	○	○	○	ソフトウェアの意義と重要性について考え，理解することができたか。 情報通信システムの特徴や処理方式の概要を理解し，ソフトウェアの意義や役割を考え，具体的な利用例を理解することができたか。 ネット通信ビジネスにおける情報通信システムに関心を持ち，各種決済システムなどの，ソフトウェアの意義や役割を考え，理解することができたか。 観光ビジネスとソフトウェアの活用，各種センサーとソフトウェアの関連などに関心をもち，概要と目的を理解できたか。 ビジネスにおけるソフトウェアの役割を理解し，これを活用するための知識や技術を積極的に身に付けようとする態度を持ったか。	○	○	○	5
							○	○	○	6
	定期考査		○	○	○		○	○		1
	２章　情報通信ネットワークの活用 １節　情報通信ネットワークの導入と運用 ２節　情報資産の保護	ソフトウェアの進化が，社会の変化に与える影響を考える学習活動により，関連する知識を身に付ける。 Society5.0が実現しようとしている社会について考察し，ソフトウェアの活用例と目的を理解する。	○	○	○	IoT,AI,BDついて理解するとともに，関連するソフトウェア技術の活用と社会課題について，その関連性を考察しようとしている。 ソフトウェアの意義と社会課題について，様々な社会活動と関連付けてみいだせる。 ソフトウェアとビジネスや社会課題との関連について自ら学び，適切に活用し，主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	○	○	○	6
							○	○	○	3
	定期考査		○	○	○		○	○		1
2学期	３章　表計算ソフトウェアの活用 １節　表計算ソフトウェアを用いた情報の集計と分析	ネットワーク機器の機能や情報技術の進歩に伴う通信手段の変化について理解し，それを活用する	○	○	○	ネットワーク機器の機能や情報技術の進歩に伴う通信手段の変化について理解し，コンピュータやプリンタを適切にLANやインターネットに接続するための基礎的な方法や，情報通信ネットワークのシステム障害に対処するための基本的な技術について理解している。	○	○	○	13
	定期考査		○	○	○		○	○		1
	２節　表計算ソフトウェアを用いたオペレーションズ・リサーチ	コンピュータやプリンタをLANやインターネットに接続するための基礎的な方法や，情報通信ネットワークのシステム障害に対処するための基本的な技術を身に付ける。	○	○	○		○	○	○	12
	定期考査		○	○	○		○	○		1
3学期	３節　手続きの自動化	情報資産を保護するため，ソフトウェアの脆弱性への対応や，無停電電源装置の活用などのリスクを適切に管理する方法について理解するとともに，情報を共有するためのファイルとフォルダのアクセス権の設定や，暗号化の種類，データのバックアップなどについての基本的な技術を身に付ける。	○	○	○	情報資産を保護するため，ソフトウェアの脆弱性への対応や，無停電電源装置の活用などのリスクを適切に管理する方法について理解し，情報を共有するためのファイルとフォルダのアクセス権の設定や，暗号化の種類，データのバックアップなどについての基本的な技術について理解している。	○	○	○	7
	定期考査		○	○	○		○	○		1
										合計 60